

平成29年度

事務事業の点検評価結果報告書

平成30年8月

山県市教育委員会

目 次

第 1 章 点検評価結果の概要

1	趣旨説明	1
2	点検評価の実施について	2
	＜ 評価について ＞	
3	点検評価結果について	
	(1) 点検評価結果全体の概要	3
	(2) 分野ごとの点検評価結果	4
	(3) 事業ごとの評価一覧表	5

第 2 章 各事務事業の点検評価シート

	教育委員会の活動状況	8
	重点目標 1 (主要施策 1～ 4)	9
	重点目標 2 (主要施策 5～ 8)	20
	重点目標 3 (主要施策 9～ 11)	27
	重点目標 4 (主要施策 12～ 15)	35
	重点目標 5 (主要施策 16～ 19)	45
	重点目標 6 (主要施策 20～ 21)	51

第 3 章 外部有識者からの意見

(1)	外部有識者からの意見	53
-----	------------	----

(参考資料)

・	山県市教育委員会点検評価実施要綱	54
・	山県市教育委員会点検評価委員会設置要綱	56
・	山県市教育委員会点検評価委員	58

第1章 点検評価結果の概要

1 趣旨説明

山県市教育委員会では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成29年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告を行うものです。

なお、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に規定されている教育委員会の職務権限は下記のとおりです。

【参考】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号) 抜粋」

(教育委員会の職務権限)

第21条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- (1) 教育委員会の所管に属する第30条に規定する学校その他の教育機関(以下「学校その他の教育機関」という。)の設置、管理及び廃止に関すること。
- (2) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産(以下「教育財産」という。)の管理に関すること。
- (3) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- (4) 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。
- (5) 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- (6) 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- (7) 校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。
- (8) 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。
- (9) 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。
- (10) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。
- (11) 学校給食に関すること。
- (12) 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。
- (13) スポーツに関すること。
- (14) 文化財の保護に関すること。
- (15) ユネスコ活動に関すること。
- (16) 教育に関する法人に関すること。
- (17) 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。
- (18) 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。
- (19) 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する

事務に関すること。

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の実施について

教育委員会は、「山県市教育委員会点検評価実施要綱」に基づき、平成29年度の教育委員会の事務事業等について、次の内容の点検・評価を実施しました。

(1) 教育委員会の活動状況等

教育委員会会議の実施状況、調査活動の実施等について

(2) 事務の管理及び執行の状況

「山県市の教育基本方針」に示す施策の執行状況及びその成果について

<目標について>

目標について、「・」は「維持向上型事業」に関する目標、「◎」については「積上型事業」に関する目標としました。

※「維持向上型事業」とは、5年間を通し、同じ目標として向上を目指す事業。

※「積上型事業」とは、計画的に毎年度目標を設定し、重点目標の達成を目指す事業。

<評価について>

上記項目について、次の4区分により、その達成度の評価を行いました。

評 定	内 容
A	順調に達成しているもの
B	おおむね順調に達成しているもの
C	達成見込みであるが課題があるもの
D	順調でないもの

なお、地教行法第26条第2項に規定されている「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」については、「山県市教育委員会点検評価委員会設置要綱」に基づき、評価委員会を設置し、評定結果に対する意見の聴取を行いました。

3 点検評価結果について

(1) 点検評価結果全体の概要

◇教育委員会の活動状況	
①教育委員会会議の状況	順調に達成している (A)
②調査活動の状況	順調に達成している (A)
◇事務事業の執行状況 (全51項目について評価)	
A 順調に達成しているもの	47 / 51項目 (92%)
B おおむね順調に達成しているもの	2 / 51項目 (4%)
C 達成見込みであるが課題があるもの	0 / 51項目 (0%)
D 順調でないもの	2 / 51項目 (4%)

(2) 分野ごとの点検評価結果

平成29年度の重点施策別の点検評価結果は、下記のようにになりました。

重点目標1 (全13項) 「学ぶ意味や喜びを 味わえる学習づくり」	A	順調に達成しているもの	13	項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	0	項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0	項目
	D	順調でないもの	0	項目
重点目標2 (全9項目) 「児童生徒のよさを 生み出す環境づくり」	A	順調に達成しているもの	9	項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	0	項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0	項目
	D	順調でないもの	0	項目
重点目標3 (全8項目) 「信頼に満ちた 安心・安全な学校づくり」	A	順調に達成しているもの	8	項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	0	項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0	項目
	D	順調でないもの	0	項目
重点目標4 (全12項) 「「学び」と「活用」の サイクルの確立」	A	順調に達成しているもの	11	項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	1	項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0	項目
	D	順調でないもの	0	項目
重点目標5 (全7項) 「ゆとりとやるおいを 実感できる文化芸術活 動」	A	順調に達成しているもの	5	項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	0	項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0	項目
	D	順調でないもの	2	項目
重点目標6 (全2項) 「人間尊重の精神に あふれた人づくりの推 進」	A	順調に達成しているもの	1	項目
	B	おおむね順調に達成しているもの	1	項目
	C	達成見込みであるが課題があるもの	0	項目
	D	順調でないもの	0	項目

(3) 事業ごとの評価一覧表

「山県市教育振興計画」に示された「重点施策」「主要施策」「主要事業」に伴い、平成29年度の「実施事業」の評価を行いました。「実施事業」の評価は、以下のとおりです。

重点目標1】学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	
主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進	評価
(1) 『分かる授業・心にひびく教育』推進事業	A
(2) 個別指導及び問題解決学習等授業改善事業	A
(3) 学校管理訪問事業	A
(4) 教職員の各種人事交流による学校活性化事業	A
主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実	評価
(1) 学校提案型教育活動推進事業	A
(2) ふるさと大好き、わくわく体験事業	A
(3) 地域とともにある学校の推進事業	A
(4) 学校コラボレーター事業	A
主要施策3 学校間連携事業の充実	評価
(1) 体力づくり・スポーツ振興事業	A
(2) 芸術・文化教育推進事業	A
主要施策4 教育センター機能の充実と改革	評価
(1) 力のある教師や支援員等を育てる教職員研修推進事業	A
(2) 教育センター機能充実事業	A
(3) 教育相談事業の充実事業（適応指導教室コスモス）	A

【重点目標2】児童生徒のよさを生み出す環境づくり	
主要施策5 学校整備の推進	評価
(1) 非・構造部材の耐震対策事業	A
(2) 学校木質化推進事業	A
(3) 学校施設防災機能強化事業	A
主要施策6 学校適正規模化の推進	評価
(1) 方針に基づいた統合推進事業	A
主要施策7 快適な学習環境整備の推進	評価
(1) 冷暖房設備事業	A
(2) トイレ美化推進事業	A
(3) バリアフリー化推進事業	A
主要施策8 読書活動の充実と情報教育の推進	評価
(1) 「学習・情報センター機能をもつ図書館経営」推進事業	A
(2) 学習用ICT整備・活用事業	A

【重点目標3】信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	
主要施策9 学校保健の充実と食育の推進	評価
(1) 学校保健「心と体の健康」(歯と口腔の健康づくり)推進事業	A
(2) 地産地消と食育推進事業	A
(3) 調理場整備推進事業	A
主要施策10 学校サポート体制の充実	評価
(1) 学校支援員等配置事業	A
(2) 教育・生活相談員配置事業	A
主要施策11 緊急事態への態勢強化を推進	評価
(1) あんしんネットによる登下校等安全対策事業	A
(2) 生徒指導連携強化事業	A
(3) いじめ防止対策推進事業	A

【重点目標4】「学び」と「活用」のサイクルの確立	
主要施策12 乳幼児期からの家庭教育の推進	評価
(1) 家族ぐるみの子育て実践事業	A
(2) 放課後子ども総合プラン推進事業	A
主要施策13 青少年健全育成の推進	評価
(1) 青少年健全育成事業	A
(2) 成人式開催事業	A
主要施策14 新たな生涯学習人口の増加と地域づくりの推進	評価
(1) 生涯学習関係団体育成・支援事業	A
(2) 公民館活性化事業	B
主要施策15 生涯スポーツの推進	評価
(1) 健康スポーツ推進事業	A
(2) 全国大会等出場応援事業	A
(3) 体育施設管理・建設事業	A
(4) 体育施設指定管理事業	A
(5) スポーツ関係団体育成・支援事業	A
(6) 総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	A

【重点目標5】「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	
主要施策 16 文化芸術活動基盤の充実と活動の推進	評価
(1) 文化の里花咲きホール活用推進事業	A
(2) 古田紹欽記念館活用推進事業	A
主要施策 17 市民の読書活動の推進	評価
(1) 図書館運営の拡充事業	A
(2) 読み聞かせ教室の開催事業	A
主要施策 18 文化財や伝統芸能等の継承推進	評価
(1) 文化財保存事業	A
主要施策 19 国際理解教育の推進	評価
(1) 青少年の海外派遣事業	D
(2) 国際交流員受入事業	D

【重点目標6】人間尊重の精神にあふれた人づくりの推進	
主要施策 20 学校における人権教育の推進	評価
(1) 学校における人権教育の推進	A
主要施策 21 あらゆる場、あらゆる機会での人権教育の推進	評価
(1) 社会人権教育推進事業	B

第2章 各事務事業の点検評価シート

様式第1号

教育委員会の活動状況

点検評価シート

山県市教育委員会

内容項目	実 績	成果・課題	評価
教育委員会会議の実施状況	<p>○開催回数</p> <p>定例会議 10回 臨時会議 1回</p> <p>○審議件数</p> <p>議決 33件 承認 6件 報告 2件</p>	<p>【成果】</p> <p>○議案の審議が厳正に行われた。また、議案以外にも、委員からの情報提供や事務局からの事業の進捗状況その他の報告に関し、委員と事務局との意見交換が活発に行われた。</p> <p>【課題】</p> <p>●会議の毎月開催に努め、教育委員会の円滑な運営及び教育振興計画を推進するため政策会議を開催し、教育委員会の更なる活性化を図る。</p>	A
調査活動の状況等	<p>○視察調査</p> <p>・市内視察 学校訪問（美山中学校、伊自良北小学校） 学校施設視察（桜尾小学校）</p> <p>・市外視察 岐阜県教育委員会連合会研修会（飛騨市）</p> <p>○その他</p> <p>協議会 3回 山県市総合教育会議 1回</p>	<p>【成果】</p> <p>○学校訪問にて特色ある教育実践を視察すると共に、学校長等との意見交換により学校の現状把握をすることができた。また、学校の空調、LED、及び図書管理システムの整備状況を確認することができた。</p> <p>○委員の自己研修の場とし、県内教育委員会の優れた実践活動の発表をとおして、今後の教育行政の参考とすることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>●市民から信頼される教育行政の運営を目指し、各種団体と連携を密にし、意見交換を積極的に行い、教育委員会の更なる活性化を図る。</p>	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進</p> <p>○教職員の授業力を高め、児童生徒に確かな学力を育てます。</p>	<p>(1)『分かる授業・心にひびく教育』推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 『山県市立学校3つの実践』（規律、学力、自己有用感）を全ての小・中学校で一貫した共通実践とします。 基礎学力の向上と自己表現力の育成を図ります。 推進校指定や研修校指定による実践的な授業研究会や生徒指導事例研究会を行うことで、「力のある教師」を育てます。 特別支援教育コーディネーターや教育相談員の適正な配置、教育支援委員会・就学相談会の充実を図り、保育園・幼稚園・特別支援学校との連携を深め、早期からの適切な就学指導を行います。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上のための授業改善に力点を置き「規律・学力・自己有用感」の視点で指導・支援が進められた。 研修校 高富小、高富中 10月13日に高富中公表会を実施。 教育支援委員会 7回開催 就学相談会 2回開催 特別支援教育コーディネーター研修会 2回開催 学習支援員・教育サポーター・英語活動支援員研修会 3回開催 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「規律・学力・自己有用感」の3つの教育実践を共通に全小中学校で取り組むとともに、特に基礎基本の定着に力点を置いて指導できた。また、各校では具体的な目標をもって指導をした。 ○基礎学力向上に向けた優れた教育実践の交流がさまざまな会議に重ねて行われた。 ○研究会の形態を改善（最初に少人数での話し合いを行う等）することで、参観者の授業力を高めることができた。 ○保育園・幼稚園との連携を強化し、早期からの就学指導を強化できた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●少人数であることを生かす指導法や授業のあり方の工夫を一層進めていきたい。 ●平成32年度から小学校5、6年生で「外国語」が正式な教科になるため、教科としてよりスムーズに移行できるようにする。 ●児童生徒の基礎学力向上のため、教科書をより有効に利用した研修を行い、市内全教師に広める必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進</p> <p>○教職員の授業力を高め、児童生徒に確かな学力を育てます。</p>	<p>(2) 個別指導及び問題解決学習等 授業改善事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習等における下位10%の児童生徒に対する個別指導と見届けを徹底し、基礎学力の向上を図るための授業改善を行います。 ・自ら調べてまとめ発表する学習や仲間と共同して学習すること等、問題解決の力(思考力・判断力・表現力)や方法を身に付けるという目的を明確にした授業への改善を図ります。 ・小学校高学年における教科担任制や教科免許教員による個別支援等の配置された教職員の割当て内により質の高い授業を目指します。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導加配教員を小学校3校(3名)、中学校3校(4名)に配置し、個別指導と見届けの徹底を図った。 ・学力向上推進会議を2回行い、各校の取り組みについて交流した。 ・すべての小学校の高学年で、一部の教科において教科担任制を取り入れた。 ・オール岐阜による学力向上支援プランにより、富岡小で3回、学力向上推進会議で1回の研修会を行うとともに、2月には全教職員を対象にした研修会を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3つの見届け(実態・学習内容・定着)を意識した授業づくりができた。 ○学習内容を理解しづらい児童生徒への支援を、個別支援やコース別学習等を有効利用する授業が増えた。 ○児童生徒の学力向上のため、放課後子ども教室を利用した学習活動(個別指導)を位置づけた。 ○オール岐阜による学力向上支援プランで、講師の方より具体的な助言をいただくことで、授業の進め方や研究会の持ち方について改善を図ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●単位時間で児童生徒が付けたい力を明確にした授業展開の指導が必要である。 ●小学校高学年や複式学級等において、教科担任制の授業を見すえた教育課程の編成を更に検討したい。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進</p> <p>○教職員の授業力を高め、児童生徒に確かな学力を育てます。</p>	<p>(3) 学校管理訪問事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『山県市立学校3つの実践』を小・中学校が一貫して重点化し、具体的な教職員や児童生徒の姿が見られるよう訪問の趣旨徹底を図ります。 ・全教職員の授業や活動を参観し、具体的に助言しながら、個々の教職員の授業力・生徒指導力等の資質向上に努めます。 ・児童生徒に確かな学力を育成するために、教職員がゆとりをもって児童生徒に関わる時間を確保できるよう、事務の効率化を進めます。 ・児童生徒の安全確保や教職員の勤務規律の徹底状況について指導助言を行います。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校 年2回訪問 ・全ての学級の授業、職員の様子を参観し、指導助言した。 ・管理職、主任層と懇談を行い、教育活動の推進状況を把握し、学校経営について指導助言した。 ・校長会・教頭会を通して、「危機管理体制の整備」と「教職員の勤務規律の徹底」を指導し、管理訪問において見届けをした。 ・学校スリム化プロジェクトを推進し、ICTを活用した校務のスリム化を図った。 ・山県市立小中学校事務共同実施協議会を立上げ、市内統一の学校事務の効果的効率的な共同実施を進めた。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の教育目標や特色のある教育活動と「3つの実践」をつなぎ、個に応じた指導、定着の見届け、よさの価値付けなどを推進できた。 ○各校で「命を守る訓練」や危機管理マニュアルを見直す等実践的な訓練が実施できた。 ○教職員の危機管理意識を高めることができた。 ○学校スリム化プロジェクトで、出退勤システムの導入や教育通信の市内共通化を図るなどスリム化を進めることができた。 <p>そのため、教職員は、児童生徒や教材研究に向き合う時間がこれまでよりも確保することができた。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学校の3つの教育実践の成果と課題を広く交流し、山県市としての授業改善の方向や手立てを明確にしていく。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策1 学習指導方法の工夫改善の推進</p> <p>○教職員の授業力を高め、児童生徒に確かな学力を育てます。</p>	<p>(4) 教職員の各種人事交流による学校活性化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指導力向上のために、市内研修校への計画的な人事派遣を推進します。 ・将来を担う中堅的立場の教職員を広域派遣すると共に、他市からも指導力ある教職員を受け入れて、教育活動の活性化を図ります。 ・市内の人事交流を盛んにし、学校の活性化と教職員のキャリアアップを図ります。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・研修校への派遣 岐阜地区実習校へ 2名 ・岐阜大学教職大学院教育実践開発コースへ 1名 (岐阜大学教職大学院特別支援教育コース夜間授業の受講者への一部助成を予算化) ・広域派遣受け入れ 各務原市より 1名 ・地域外一般異動受け入れ 岐阜市より 1名 ・他県交流派遣受け入れ 鹿児島県より 1名(2年目) 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一般異動ルールが変更になり、市内の活性化を図る異動ができた。 ○主幹教諭を2名小学校に配置し、学校と地域の連携強化を図った。 ○初任者を3名受け入れ、ベテラン教員と若手教員のバランスを図ることができた。 ○岐阜大学教職大学院特別支援教育コース夜間授業の受講者への一部助成等、市内学校の実態に即した義務教育段階における特別支援教育の活性化やカリキュラムマネジメントの整備に着手することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒数の減少に伴い教職員の減少が進む中、山県市に本拠地を置く職員や広域人事交流を終えた職員が多いことから、新ルールに基づく一般異動で人事交流を積極的かつ計画的に進めていく必要がある。 ●再任用教諭の増加に伴い、雇用年数などの条件を整備する必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実</p> <p>○ふるさと山県に一体感や愛情・誇りがもてる児童生徒を育てます。</p>	<p>(1) 学校提案型教育活動推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統産業や地域の自然、市の各種施設を有効に活用し、校区を中心に市域全体から人材を活用する等、『ふるさとに学ぶ提案型体験活動』を一層推進します。 校長の教育ビジョンを明確にし、地域や学校の伝統の上に立った創意あふれる「特色ある教育活動」を推進します。 	<p>学校教育課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校提案型教育活動を全12校で実施した。 環境、農業体験、伝統芸能等多岐にわたる実践で、地域人材の活用が推進された。 学校コラボレーター事業の活用により、地域人材の活用が図られ、地域と学校をつなぐことができた。 <p><大桑小> ・かしの木フェスティバル <桜尾小> ・FBC学校花壇コンクール <高富中> ・大音楽フェスタ 等</p>	<p>≪成果≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校提案型教育活動と地域とともにある学校の推進活動を合体事業として捉え活動した学校もあり、学校や地域の特色を生かした実践を積み上げることができた。 ○学校コラボレーター事業と連携し、地域人材を積極的に活用する中で、より一層ふるさと山県に愛着がもてる活動となった。 <p>≪課題≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の文化、日本の伝統的な文化を学び、継承する機会の一層の充実を図る。 ●ふるさとの自然や歴史・文化を学ぶ「ふるさとに学ぶ提案型体験活動」をさらに意図的に進める必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価	
				実績	成果と課題		
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実</p> <p>○ふるさと山県に一体感や愛情・誇りがもてる児童生徒を育てます。</p>	<p>(2) ふるさと大好き、わくわく体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校の創意を活かし、地域の自然や施設を十分活用した魅力あふれる「宿泊体験プログラム」を充実します。 学校、地域、施設等の連携を強化し、体験活動の場や機会の開拓、指導者の確保等、地域住民と共に創る学習活動を推進します。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 小学校9校において宿泊体験活動をグリーンブラザミやまコテージ村にて実施した。 主な活動としては、古城山登山、野外炊事、キャンドルサービス、化石採集、水中生物観察、座禅体験等を行った。 <p><実施学年と主な活動></p>		<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校コラボレーター事業と連携して地域の指導者の確保ができた。 ○地域の自然や文化に触れながら、仲間と共にやり遂げる喜びを実感することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市内の自然や文化に直接触れることができる活動内容の開拓と安全面を考慮したボランティアの支援が必要である。また、市内の文化施設等の一層の活用を図りたい。 	A
				実施学年	主な活動		
				高富小5年55名	古城山登山、甘南美寺研修		
				富岡小5年59名	水中生物観察学習、木工クラフト体験		
				梅原小5年17名	古城山登山、化石採集 アロマキャンドル作り		
				大桑小6年11名	化石拾い体験、「進んで・楽しく・協力」研修会		
				桜尾小5年18名	山菜採り体験、山の生活体験学習		
				伊自良南小4年11名	溪流での生物観察、水質学習		
				伊自良北小4年6名	化石採集、マスつかみ体験 星空観察学習		
				美山小5年35名	古城山登山、甘南美寺研修		
いわ桜小 全学年29名	化石採集、水生生物観察学習 マスつかみ体験						

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実</p> <p>○ふるさと山県に一体感や愛情・誇りがもてる児童生徒を育てます。</p>	<p>(3) 地域とともにある学校の推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の様々な教育活動が効果的かつ安全に実施できるよう地域力を活用した学校コラボレーター事業を推進します。 地域とともにある学校にするために、地域教育協議会を発展させ、「学校運営協議会」の設置を推進し、具体的内容や計画、実施における成果と課題等の状況を把握し、指導助言します。 幼保・小中の連携を一層推進するとともに、山県高等学校との交流や連携の在り方を実践的に推進します。 保護者や地域住民が学校運営に参画できる制度づくりに取り組みます。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭、地域が一体となって活動することで連携を強化し、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むことができた。 学校運営協議会が発足して2年目となり、保護者や地域住民が学校運営に参画することで、より教育活動の充実に繋がった。 <p><学校運営協議会回数></p> <p>高富小 2回 富岡小 3回 梅原小 6回 大桑小 5回 桜尾小 3回 美山小 3回 いわ小 3回 高富中 5回 美山中 4回 伊自良地区合同学校運営協議会 3回 (伊自良南小・伊自良北小・伊自良中)</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の特色を活かした支援部会を設置し、学校コラボレーター事業と連携して取り組むことができた。 ○各学校の様々な実態を知ってもらい、保護者や地域住民が一体となって学校運営に参加してもらうことができた。 (見守り隊の再構成、防災教育の推進、キャリア教育や地域行事の主催、各種事業の協働、小規模校の合同交流会等) <p>これにより、児童生徒への教育効果が高まったり、教職員の負担軽減が図られたりといった成果が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の学校運営協議会会長が集まり、実践交流や意見交流を行うことにより、学校運営協議会の活動を広め、深めることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域のニーズを的確にとらえ、学校と地域全体の一層の連携を進めていきたい。 ●幼保・小・中・高の一層の連携を進めていきたい。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策2 ふるさとの伝統や地域性を活かした特色ある教育活動の充実</p> <p>○ふるさと山県に一体感や愛情・誇りがもてる児童生徒を育てます。</p>	<p>(4) 学校コラボレーター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校コラボレーター事業の普及活動、広報活動を積極的に行います。 学校コラボレーターの登録者を広く公募するとともに、効果的な活動ができるよう学校コラボレーター会員の定期的な研修会を実施します。 学校コラボレーター会員の行う学習支援活動等を拡大、充実し、効率的に行えるよう地域コーディネーターを中心として計画・調整の体制を確立します。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーター情報交換会を実施した。(2～3/回・月) 6月及び11月に学校コラボレーター対象の研修会を開催した。 学校コラボレーター会員の活動により、各学校の学習支援が充実した。 4名の地域コーディネーターが、各学校の要請に応じてコラボ会員を派遣するなど、学校と地域の連絡調整を行った。 コラボレーター通信を年間3回発行した 学校コラボレーター会員に180名の登録者があった。 活動としては、 <ol style="list-style-type: none"> 学習支援 <ul style="list-style-type: none"> 教科指導 総合学習支援 郊外活動の引率 等 環境支援 <ul style="list-style-type: none"> 清掃・除草作業 図書室整理 等 を行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間512件、延べ3,658名の活動があり、学習支援、環境支援につながった。 ○「うどん作り」や「たぬきの糸車」などの支援を通して、児童の体験的な活動を活性化させることで、学びに向かう意欲を一層高めることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●諸事情により、活動ができないコラボレーターも多数みえるので、一度リセットして、再登録を行う必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	■主要施策3 学校間連携事業の充実 ○全ての学校が参加し、体を鍛え、豊かな心をはぐくみます。	(1)体力づくり・スポーツ振興事業 ・山県市小学生陸上記録会を実施し、児童の体力や運動能力の向上を目指します。 ・毎年7月に山県市中学校総合体育大会を実施し、技能向上と他校との交流を図り、技能の向上と健全なスポーツ精神を養う機会とします。	学校教育課	・各校において新体力テスト、体育の授業などにおいて記録を測定し、記録会の記録とした。 ・7月に7種目において、市中学校体育大会を行った。	≪成果≫ ○陸上記録会は、各校において記録を測定することで、児童の取組に対する価値付けを年間通じて行うことができた。 ○団体競技において、優秀選手賞を表彰することで、勝敗に関わらず活躍した生徒を表彰することができた。 ≪課題≫ ●市民スポーツ大会に小学生の部を設置する等、山県市の体育協会等との共催も考えたい。	A
		(2)芸術・文化教育推進事業 ・文集「やまびこ」を活用して、表現活動や読書活動等の学習活動を充実するよう各校で工夫します。 ・絵画・書写等の特に優秀な作品は、展示会を開催する等、市民に広く紹介します。	学校教育課	・テラステーション(全学校共有のサーバー)上に「やまびこ」作品をアップした。 ・11月9日～12月3日に山県市美術館において「子どもの市展」を行った。	≪成果≫ ○テラステーション(全学校共有のサーバー)上にアップすることで、いつでも作文指導に活用できるようになった。 ○「子どもの市展」では、941名の来館者があり、多くの方に鑑賞してもらうことができた。 ○表彰式を市役所で行ったことにより、市長から直接、賞状等を手渡すことができた。 ≪課題≫ ●事業を見直し、最小限の努力で最大限の功績を上げられるよう改善していく。	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	<p>■主要施策4 教育センター機能の充実と改革</p> <p>○各種事業推進のためのセンター機能を強化、効率化を図ります。</p>	<p>(1) 力のある教師や支援員等を育てる教職員研修推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種組織との連携や市内教職員の専門性や特技を活かして、教職員のニーズを満たす研修講座を開設し、教職員の研修意欲や専門性の向上に努めます。 採用から10年までの若手教職員の育成を目的とした研修講座を開設し、教職員としての技能や資質の向上に努めます。 別の支援が必要な児童生徒への効果的な対応ができるよう市費雇用の支援員等の資質・能力の向上に努めます。 幼稚園や保育園と連携したスタートカリキュラム作成を継続し、小学校と幼稚園・保育園が連携して情報交流を行い、就学前後の一貫した指導の充実に努めます。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> 経験年数が豊富な教師の力を活かすために、「夏期講座」にて、ベテランから若手にプロとしての教師の在り方を教え伝える、様々な講座を開設した。また、道徳教育と外国語活動を一部教員の悉皆とした。 初任者、2年目、3年目、6年目の教員を対象に2～4回の研修を行った。 学校の要請に応じて、センター学習支援員が担任や特別支援コーディネーター、学習支援員の授業参観、指導・助言を行った。 スタートカリキュラムを活用した時間割編成を行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏期講座を10講座開設し、延べ188名の教職員が受講し、資質向上を図ると共に、講師のベテラン力をさらに伸ばすことができた。 ○外国語活動を一部教員の悉皆とすることで、教科化へ向けて意識の高揚を図ることができた。 ○年数に応じた研修を行うことで、資質の向上に努めることができた。 ○センター学習支援員の要請訪問を通して、担任や特別支援コーディネーター等と懇談等を行うことで、困り感のある児童生徒への対応の仕方等について、共通認識のもと指導をすることができた。 ○スタートカリキュラムを活用することで、多くの児童が学校生活を円滑にスタートすることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個別に支援が必要な児童・生徒に対する支援のあり方について、援助できる体制をさらに整えていけるとよい。 ●道徳と外国語活動については、今後も継続的に研修を行っていく必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
学ぶ意味や喜びを味わえる学習づくり	■主要施策4 教育センター機能の充実と改革 ○各種事業推進のためのセンター機能を強化、効率化を図ります。	(2) 教育センター機能充実事業 ・児童生徒の優秀な作品の保管場所を確保し、必要に応じて学習活動に利用できるよう工夫します。 ・センター施設や所蔵の備品、センター図書の実用性を図ります。 ・インターネットを活用して蓄積した教育実践や調査・研究の情報を市内の教職員が積極的に活用するよう啓発します。	学校 教育課	・夏休み作品展の会場として活用した。 ・実践論文等を所蔵し、若手職員の実践に活用することができた。 ・テラステーション(全学校共有のサーバー)のフォルダを整備し活用しやすくした。 <教育センター講座実績> 回数…382回 参加人数…5,100人 (各種研修会、調査研究、野外活動、作品展、図書貸出)	<<成果>> ○教育センターの事業が定着し、学校への支援・連携も充実してきた。 ○センター施設や所蔵の備品を有効に活用する学校等が増えた。拡大コピー機の使用については、勤務の適正化も意図し、市内学校の看板等の掲示物を教育センターが一括で作成できるようにした。 ○テラステーションを活用した教職員間の情報共有が増えた。 <<課題>> ●施設や備品の整備、研修内容を一層充実させる必要がある。	A
		(3) 教育相談機能の充実事業 (適応指導教室コスモス) ・必要に応じてより効果的に生活相談員や教育相談員が対応できるよう配置や事業内容等を見直します。 ・生活相談の実践的な指導法の研修を日常的に実施するとともに、情報を確実に把握して指導に活かします。 ・家庭に課題をもつ児童生徒については、福祉課や子ども相談センター、警察署等と連携し、相談体制の強化に努めます。	学校 教育課	・適応指導教室コスモスと学校との連携により教育相談活動の充実に努めた。 ・年間12回の生活相談員・教育相談員研修会を実施し、情報交換等を行った。 ・センター情報交流会において、主任教育相談員やエリア担当生徒指導主事から報告を受け、情報交流を行った。	<<成果>> ○6名の児童・生徒が適応指導教室コスモスに来所し、登校復帰へ向けた支援を行うことができた。 ○月1回の生活相談員・教育相談員研修会を行うことで、同歩調で指導を行うことができた。 ○希望はあっても来所できない児童生徒のために高富分室を設置することができた。 <<課題>> ●不登校傾向の児童生徒数は横ばいだが、さらに相談機能を充実していく必要がある。	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	■主要施策5 学校整備の推進 ○だれもが安心して、だれにも快適な環境としての学校を創ります。	(1) 非構造部材の耐震対策事業 ・「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック」に沿って、天井材の落下防止対策及び収納棚等の転倒防止対策を計画的に進めます。 ・既存耐震対策設備等の維持管理および照明器具や備品棚等の更なる対策を行います。	学校教育課	・以前に行った非構造部材耐震化の維持管理をした。 また、全小中学校において校舎及び体育館のLED照明器具取替に合わせ、落下防止措置及び器具取付方法の改善を行い、安全確保に努めた。	≪成果≫ ○既存設備の整備ができた。また、安全確保に努めることで災害時への準備ができた。 ≪課題≫ ●対応済み箇所においても継続的な維持管理をする必要がある。	A
		(2) 学校木質化推進事業 ・施設の大規模改修にあわせ、児童生徒のふれあう場所を中心として、木質化への取組を進めます。また、机・椅子等の更新時には山県市産木材の利用に努めます。 ・小規模改修や修繕においても木質化取組の検討をします。	学校教育課	・伊自良北小学校といわ桜小学校の余裕教室1室において、木製ロッカーを整備した。	≪成果≫ ○児童のふれあう場所で、木質化整備を行うことができた。 ≪課題≫ ●学校施設改修事業の計画時に県産材や山県市産材使用を検討し進めていく。	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策5 学校整備の推進</p> <p>○だれもが安心して、だれにも快適な環境としての学校を創ります。</p>	<p>(3) 学校施設の防災機能強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 多目的トイレが未整備の学校体育館トイレを計画的に改修します。また、各学校に防災備蓄倉庫や自家発電設備等を計画的に整備していきます。 既存設備の維持管理および屋内運動場多目的トイレにおける未整備校(2校)の整備をします。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 以前に整備した多目的トイレの維持管理を行った。また、未整備だった伊自良北小学校といわ桜小学校の屋内運動場多目的トイレの整備が完了した。 浸水想定区域内、土砂災害警戒区域内にある学校が避難確保計画を作成し、学校教育課とその内容について確認を行った。 (富岡小・梅原小・桜尾小・伊自良南小・伊自良北小・いわ桜小) 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既存設備の整備ができた。 ○今回の整備にて、全小中学校の屋内運動場多目的トイレの整備を完了することができた。 ○非常時の緊急避難の体制と対応について計画をし、防災に関わる教職員の研修と児童生徒の避難訓練を行うことができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校施設において、必要な改修を計画的に進めていく。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策6 学校適正規模化の推進</p> <p>○地域の実情や動向をみつめ学校の適正規模化を推進します。</p>	<p>(1) 方針に基づいた統合推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山県市立小学校及び中学校適正規模推進基本方針及び推進計画」に基づき、複式学級が想定される小規模小学校は、学校統合の準備期間等を考慮し、就学前の早い段階で見定めを行い、保護者や地域住民の意見を聞きながら、学校統合についての検討を進めます。 ・過小規模小学校については、小規模の特性を活かした特色ある教育活動を支援しながら、県費及び市費による非常勤講師を配置し、複式学級の状態を極力解消しつつ、学校統合の必要性を判断していきます。 <p>◎適正規模の見定めと、将来を見据えて、適正規模の取組について見直しをします。</p>	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・「山県市立小学校及び中学校適正規模推進計画」に基づいて、適正規模の見定めを行い、平成29年度の取組についてHP等で広く市民に周知した。 ・今後(平成35年度まで)の児童生徒数の一覧表より、今後も過小規模の学校が複数想定されることから、「山県市立小学校及び中学校適正規模推進計画に基づく適正規模の取組について」の見直しを行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「山県市立小学校及び中学校適正規模推進基本方針及び推進計画」に基づいて、今後も過小規模の学校が複数想定されることや各学校の地理的条件や教職員配置、地域コミュニティー等、児童生徒に軸足を置き、将来を見据えて計画的に進めていくことを確認し、適正規模の見定めと取組の見直しをするとともに、ホームページ等で広く市民に周知した。 ○学校運営協議会等において、地域の教育の在り方や願いについて議論を活性化することを依頼した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後、出生数の減少や転出により、さらに小学校では、複式学級が増加となる可能性があり、また、中学校でも部活動や教職員配置等の問題がさらに現れてくることが予想される。地域と学校の共有された願いを受け止めたうえで、新たな学校像等を模索する必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	■主要施策7 快適な学習環境整備の推進 ○全ての人に優しく、居心地のよい学習環境を整備します。	(1) 冷暖房設備整備事業 ・全普通教室にエアコンの設置を計画的に進めます。 ・老朽化した暖房機器や空調設備については、計画的に更新を図るとともに省エネ等への取組を進めます。 ◎既存設備の維持管理および冷暖空調方式の調査研究を行います。	学校 教育課	・前年度までに行った冷暖空調方式の調査結果に基づき、全ての小中学校の普通教室等に空調設備を設置した。 ・既存の空調設備の修繕又は取替を行うなど、適切な維持管理を行った。	≪成果≫ ○全ての小中学校の普通教室等に空調設備を設置したほか、既存の空調設備の修繕又は取替を行うなど、環境を整備することができた。 ≪課題≫ ●普通教室以外の箇所についての整備検討及び省エネ等への取組を推進する必要がある。	A
		(2) トイレ美化推進事業 ・計画的にトイレを乾式に施設改修を行います。 ・和式便器から洋式便器への移行、併用を進めます。 ・教育面からトイレの清掃美化活動に積極的に取り組みます。 ◎既存設備の維持管理および美化清掃活動推進を行います。	学校 教育課	・伊自良北小学校及びいわ桜小学校の体育館トイレ改修工事を行った。 ・小中学校ごとにトイレ清掃美化活動を行った。 ・既存設備の修繕又は取替を行うなど、適切な維持管理を行った。	≪成果≫ ○整備が遅れていた学校のトイレ改修工事を行ったほか、既存設備の修繕又は取替を行うなど、環境を整備することができた。 ○美化意識を向上することができた。 ≪課題≫ ●洋式及び多目的の箇所数増について検討する必要がある。 ●美化意識の向上とともに、既存設備を大切に使用する教育を行う必要がある。	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策7 快適な学習環境整備の推進</p> <p>○全ての人に優しく、居心地のよい学習環境を整備します。</p>	<p>(3) バリアフリー化推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいのある児童生徒の活動範囲における段差を極力解消し、壁面には手すりやスロープを設ける等、障がい者に優しい施設環境の整備を進めます。 未整備の学校は多目的トイレを設置します。 <p>◎既存設備の維持管理および屋内運動場多目的トイレにおける未整備校（2校）の整備をします。</p>	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館トイレ改修工事により段差の解消を行った。 ・手すり設置のほか、既存設備の修繕又は取替を行うなど、適切な維持管理を行った。 	<p>《成果》</p> <p>○工事又は修繕を行ったことにより、環境を整備することができた。</p> <p>《課題》</p> <p>●学校ごとの現状を踏まえ、必要な改修を計画的・継続的に進める必要がある。</p>	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策8 読書活動の充実と情報教育の推進</p> <p>○全ての児童生徒が読書に親しみ、快適に情報機器を活用できるようにします。</p>	<p>(1)「学習・情報センター機能をもつ図書館経営」推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の充実のため、今後も、全小・中学校に読書指導員を配置し、実践的な研修会を開催します。 ・学校図書館内の修繕や設備の充実に努め、PTAやボランティアを有効に活用して、学習・情報センター機能をもつ学校図書館を創造します。 ・図書のバーコード化を推進するとともに各学校や市図書館、市教育センターとのネットワークづくりに努めます。 ・児童生徒が一人で過ごしたり、年齢の異なる様々な人々との関わりをもったりすることができる「心の居場所」となる場とします。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校に読書指導員を配置(小規模校は2校兼務)し、教育センター及び図書館教育推進校において年2回の研修会を行った。 ・1回目(6/14) 図書館教育の情報交換 図書館運営の交流会 ・2回目(2/14) 桜尾小の取組発表及び情報交換 ・図書館ボランティアが飾り付けや掲示等の環境整備を行った。 ・図書バーコード管理サービスを全12校、教育センターに導入し、蔵書共有化が図れる環境を整備した。 ・関係機関と連携し、各校の廃棄図書の有効活用を行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修会で図書館運営の交流を行うことで、読書指導員の図書紹介の技能を高めることができた。 ○読書指導員による積極的な働きかけにより、読書をする児童生徒を増加させることができた。 ○各校の図書館の掲示等、過ごしやすい環境づくりを心がけたことにより、児童生徒が図書館に親しみをもち、「心の居場所」とすることができた。 ○図書バーコード管理サービスの全校導入により、蔵書のネットワーク検索が図れる環境を整備、各校の蔵書のうち蔵書登録済みの約2万冊が検索対象となった。 ○先行導入校ではすべての蔵書登録が完了した。 ○地域住民への図書室の開放に向けて、歩み出しを図ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図書バーコード管理サービスへの蔵書登録を進め、蔵書のネットワーク検索対応および図書管理業務の効率化を図っていく。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
児童生徒のよさを生み出す環境づくり	<p>■主要施策8 読書活動の充実と情報教育の推進</p> <p>○全ての児童生徒が読書に親しみ、快適に情報機器を活用できるようにします。</p>	<p>(2) 学習用ICT整備・活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力等を育成するために、最新の視聴覚教材や教育機器を段階的、計画的に整備します。 ・学習課題への興味関心を高めたり、学習内容を分かりやすくしたりするために、授業でのICT活用を推進します。 ・インターネットや携帯電話、スマートフォン等の普及にともなって起こる「ネット上のいじめ」問題に対応するために児童生徒及び教職員に対する情報モラル教育の徹底を図ります。 <p>◎老朽化したICT設備を更新し、ICT機器を適正に運用し、活用できる環境を維持します。</p> <p>◎ICTを活用した学習の実践交流を実施し、活用事例の展開を図ります。</p>	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育研究推進委員会において、ICT活用実践交流を実施した。(7/27) ・職員室パソコンを更新整備した。(6校163台) ・学習プリントサービスを活用し、単元テスト等を実施した。(アクセス回数14,056回) ・教材提示用の大型テレビを追加整備した。(1校3台) ・最新のICT機器(電子黒板、デジタル教科書、タブレットPC、無線LAN)について推進校において試験使用を実施した。 <p><平成29年度整備後の現有数(全学校)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビ 61台 ・書画カメラ 63台 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT活用教育推進校(モデル校)での大型テレビやタブレットPCの活用により、「思考力・判断力・表現力等」の育成や分かりやすい学習の実施のための有効性の確認を実施した。最新のICT機器の試験使用の実施により、今後の学習用ICT整備の方針を検討することができた。 ○職員室パソコンの更新により、セキュリティを確保したうえで、効率的に校務を実施できる環境が整備できた。 ○学習プリントサービスを利用し、児童生徒の状況を踏まえた単元テストの作成により、効果的なプリント学習を実施することができた。 ○各学校において、児童生徒及び教職員に対しての情報モラル教育を実施し啓発を図った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最新の学習用ICT機器について、先進導入校における活用実践を深める。 ●学習用パソコン等老朽化する設備の更新およびICT機器の導入に向けて予算を確保し、効果的な整備を実施していく。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策9 学校保健の充実と食育の推進</p> <p>○健康な心身を育む学校保健・食育の充実に努めます。</p>	<p>(1) 学校保健「心と体の健康」(歯と口腔の健康づくり) 推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と歯科医師会との連携を密にして、専門的立場からの助言を教育活動に活かします。 各学校の実情に応じて年間計画を策定し、『心と体の健康』(歯と口腔の健康づくり) を目指した保健教育の充実に努めます。 これまでの成果をふまえ、フッ化物洗口の実践と歯肉炎予防における歯科保健教育(ブラッシング指導等)を継続します。 山県市学校保健研究大会の開催 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 各学校及び山県市学校保健会が、医師会、歯科医師会、薬剤師会と連携を図り、次の事業を実施した。 「各種健康診断」 「歯と口腔の健康づくり優良児童審査会」 「学校環境衛生活動調査」 「岐阜県学校保健研究大会の開催」 フッ化物洗口 99.5% 一人平均虫歯本数 0.06本(DMF T指数) 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校と学校医が連携を図り、児童生徒の健康づくりができた。 ○各学校が年間指導計画を基に健康教育に取り組み、実践力を高めることができた。 ○各学校がフッ化物洗口を継続して実践していることから、県内で12歳児1人当たりのむし歯が非常に少ない市となっている。県内第2位(県内1位:白川小学校児童数4人) ○山県市学校保健研究大会、約150名の関係者の参加を得て、充実した大会を開催することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●健康な生活を送ることができる自己管理能力をさらに高めていく。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策9 学校保健の充実と食育の推進</p> <p>○健康な心身を育む学校保健・食育の充実に努めます。</p>	<p>(2) 地産地消と食育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校で「いい歯の日」、「食育の日」を設定し、『山県ふるさと食材』を活かす献立を工夫し、その他の食材も地産地消を一層推進します。 ・食育や地場産業の育成等の観点から、市の関係部局と問題を共有しながら食材の安定的な供給を目指します。 ・児童生徒の朝食欠食や孤食等の食生活の改善に向けた食育の充実と家庭への啓発を進めます。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校で地産地消を推進し、ふるさとの食材を活かした献立とした。 ・食品数の割合における地場産物使用割合 小中学校 平均34.6% ※山県市総合計画 第5章 第1節 施策2における学校給食の地場産業使用割合に対する数値目標 平成31年度：30.0% ・使用量における地場産物使用割合 小中学校 平均13.7% ・全ての学校の学校保健委員会や給食試食会等で、栄養教諭を中心に食育講話を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとの食材を献立表にのせることで、地産地消の推進状況を周知することができた。 ○いい歯の日・食育の日にちなんだ献立を工夫し、食育推進に努めた。 ○中学生学校給食選手権に市内全中学校が参加した。その中で高富中学校は3年連続入賞し、山県市らしい地域の食材を使用した、献立が評価され「ふるさと給食優秀賞」を受賞した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●産業課等と連携し、地産地消の推進をさらに進めるとともに、安全安心な食材の確保に努める。 ●朝食欠食や孤食等の食生活の改善を家庭と一体となって推進する。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策9 学校保健の充実 と食育の推進</p> <p>○健康な心身を育む学校保健・食育の充実に努めます。</p>	<p>(3) 調理場整備推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性と効率性を大切にして、調理場の整備を推進します。 ・ウエットシステムの調理場については、ドライ運用を徹底し、安全管理に努めます。 ・既存設備の維持管理および点検による不適箇所の早期改善に努めます。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校とも衛生管理研究会等の際にドライシステム運用の再確認を行った。 ・老朽化が進んでいた、調理場機器の一部を更新した。(6校) 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ドライシステム運用の必要性を理解し、安全管理に対する意識が高まった。 ○調理場機器の一部更新により、衛生面と安全面の確保等が図られた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調理場の残る機器についても、順次対応していく必要がある。 <p>また、調理場の衛生面等維持のため、順次床の修理を行っていく必要がある。</p>	A

重点 施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実 績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策10 学校サポート体制の充実</p> <p>○全ての児童生徒が等しく安全に学べる教育環境を創ります。</p>	<p>(1) 学校支援員等配置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校の要支援児童生徒の実情に応じて、全学校に各1名以上かつ児童生徒100人に1名の学習支援員または教育サポーターの配置を目指し、全ての児童生徒の学業や生活を支援します。 学習支援員等の研修会を企画し、情報交流や指導法の交流を行い、支援技能を高めます。 	<p>学校 教育課</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援員 12名 教育サポーター 10名 読書指導員 8名 主任学習支援員 1名 学習指導に関わる支援員、サポーターを各学校1～2名配置した。 読書指導員を全ての学校に配置した。 教育センターに主任学習支援員を配置し、指導方法等の研修を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 要支援児童生徒が増加している実態に応じ、複数の児童生徒に学習支援員が寄り添い、それぞれの児童生徒の実態に即したきめ細かな指導ができた。 主任学習支援員による支援の仕方等の研修会や学校訪問指導を行い、学習支援員の指導力を高めることができた。 複式学級のある小学校に複数配置できた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効な支援の在り方の研修を推進し、さらに学習支援員の資質向上や支援体制の強化を図る。 小学校英語授業の実施にともない、英語支援を行う必要がある。 	A

重点 施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実 績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策10 学校サポート体制の充実</p> <p>○全ての児童生徒が等しく安全に学べる教育環境を創ります。</p>	<p>(2) 教育・生活相談員配置事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒数の出現率の減少を目指し、教育相談員を配置し、各学校との連携体制を整備します。 ・児童生徒の実態に応じた学校、家庭、関係機関等の連携と相談活動が有効に働くようにするため、生活相談員の職務内容等について見直します。 ・教育・生活相談員の実践等を通して、学校の教職員の教育・生活相談にかかわる資質・能力の向上を図ります。 	<p>学校 教育課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主任教育相談員 1名 ・教育相談員 3名 ・学校の実態に応じて教育相談員を派遣（高富中2名、美山中に1名配置）した。 ・生活相談員 4名 ・電話相談、コスモス教室における指導、学校訪問による指導を実施した。 ・教育センターに主任教育相談員を配置し、ケース会議、適切な支援のあり方等の研修を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校との情報交流を密にし、学校、保護者、諸関係機関と指導方法を共通理解して、不登校の早期解決・減少を図ることができた。 ○高富中央公民館に適応指導教室の分室を設置し、不登校児童生徒のニーズに対応した。 ○毎月の研修会で、市内の児童生徒の状況と今後の方向を話し合い、積極的な相談体制を進めることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●不登校児童生徒数のさらなる減少のために、教職員を対象とした学校環境適応尺度（アセス）等研修を開催し、教職員及び相談員の資質向上を図る必要がある。また、幼保・小・中・高と支援が継続していく体制を整えていく。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策11 緊急事態への態勢強化を推進</p> <p>○安心・安全な学校を目指し、危機管理・安全教育を充実します。</p>	<p>(1) あんしんネットによる登下校等安全対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の安全な登下校のために、学校関係者への登録を積極的に進めます。 ・児童生徒の安全確保のために、教育委員会から一斉に「不審者情報」や「災害情報」を各小・中学校・保育園及び保護者、地域ボランティアの携帯電話・パソコンに配信します。 ・各小・中学校から「配信元の学校単位」機能を使って、学校行事や緊急の連絡等、教職員や保護者に必要な情報を配信できるよう啓発します。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話メールを利用したあんしんネットに全保護者の98%が登録し、不審者情報や、学校の行事連絡等に積極的に利用した。 ・使用頻度は、学校からの配信において、平成27年度は529件、平成28年度は555件、平成29年度は651件であった。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内の不審情報や警報発令時の対応状況等を素早く周知できた。 ○学級の連絡網を用いた電話連絡に比べ、スピードや正確さが増した。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●配信する際の操作方法を全職員が理解し操作できるようにし、緊急の場合に備える。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策11 緊急事態への態勢強化を推進</p> <p>○安心・安全な学校を目指し、危機管理・安全教育を充実します。</p>	<p>(2) 生徒指導連携強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導連携強化委員会を年9回開催し、9小学校と3中学校と高等学校の生徒の様子について交流し、課題を明確にして生徒指導の方向性を検討します。 生徒指導連携強化委員会研修会（関係施設見学・講演等）を年1回開催し、生徒指導についての最新の知識や指導法を学びます。 小中高研究部会を年3回開催し、9小学校と3中学校と高等学校の生徒の様子について交流し、課題を明確にして生徒指導の方向性を検討します。 	学校 教育課	<ul style="list-style-type: none"> 年9回生徒指導連携強化委員会を開催し、各学校、各機関との連携を図った。 研修会では8月23日に岐阜地方検察庁を訪問した。 小中高、各1回ずつ授業参観を行い、その後、生徒指導交流を行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の情報交流をすることで、市内の生徒指導について共通理解することができた。 ○青少年育成推進員など地域の方々と情報交流を図る場を位置付けることができた。 ○小・中・高校の授業参観を行うことで、異校種の実態について知ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小・中・高校の連携にとどまらず、幼・保との連携についても強化していく必要がある。そのために市内の学校等の関係職員が市内の状況を共有できる情報交流会を定期的で開催する必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
信頼に満ちた安心・安全な学校づくり	<p>■主要施策11 緊急事態への態勢強化を推進</p> <p>○安心・安全な学校を目指し、危機管理・安全教育を充実します。</p>	<p>(3) いじめ防止対策推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校のいじめの実情に応じて、具体的な取組や対応、評価について検討し、いじめ基本方針の見直しや改善をします。 校内のいじめ未然防止対策委員会の体制の整備や保護者や関係機関の連携を強化します。 具体的ないじめ事案について全教職員が研修し、積極的な生徒指導力を培うとともに共通理解・共通行動を図ります。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会等において積極的にいじめ基本方針を周知するとともに、年度末の策定委員会等において見直しや改善を図った。 いじめ未然防止対策委員会を定期的に行い、実態把握を行った。 スクールカウンセラー等を活用した研修を各校において行った。 あったかい言葉がけ運動への参加など、あったかい人間関係づくりの教育が進められた。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめ未然防止対策委員会が定着し、職員の共通理解・共通行動を進めるための中核として機能している。 ○国、県のいじめの防止等のための基本方針の改定を踏まえ、各学校のいじめ防止基本方針の改定を実施した。 ○二者懇談を行うなど、児童生徒の実態把握に努めたり、アンケート調査を定期的に行ったりするなど、未然防止の取り組みを積極的に行うことができた。 ○各校の実態に応じた現職研修を行うことで、共通理解・共通行動を図ることができた。 ○いじめの認知件数は平成28年度の41件から平成29年度は30件に減っている。21件は解消し、9件が解消に向けて取組中という結果であった。「いじめみのがし0」を合言葉にし、小さなトラブルも見逃さない姿勢と解消に向けてチームで対応する学校体制が定着してきている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特にインターネットや携帯電話などによる誹謗中傷等の事案（中学校は半数）が増加している。未然防止に向けた取組について、さらに実践していく。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策12 乳幼児期からの家庭教育の推進</p> <p>○家族ぐるみの楽しい家庭教育の在り方を啓発します。</p>	<p>(1) 家族ぐるみの子育て実践事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての保育園・小・中学校において家庭教育学級を開設し、参加者を積極的に募ります。 ・家庭教育学級を保護者の学習の場、保護者同士の交流の場として位置づけ年間計画を立て計画的に開催します。 ・福祉課主管の子育てネットワーク協議会と情報交換等を行います。 ・子育てネットワークを基盤にした「家庭教育支援チーム」の立ち上げに取り組み、家庭教育に関する支援体制を整える。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級 保育園・・・7園 (平均3.1回) 小中学校・・・12校 (平均7回) 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○親子と一緒に楽しむ内容のものが多く、「親子DEダンス」「親子で一緒に楽しい片付け」など家庭でも取り組める内容の講座が多かった。 ○夏休みや長期休暇期間中に「在宅取り組み型」の講座(例：話そう！語ろう！わが家の約束など)を企画し、自宅にいながら取り組める環境を作ることで、参加率を高めることができた。 ○「食育」「防災」「情報モラル」など保護者の学びの場や「バランスボール」「フラワーアレンジメント」などの体験講座で保護者同士の交流の場など、年間計画を立て計画的に開催することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特に父親や祖父母も参加できる講座を開講し、家庭教育を家族で取り組めるよう進めていく。 ●組み合わせ(例：講演型+サロン型など)を使って内容の充実を図るとともに、特に組み合わせやすい「サロン型」を入れて、保護者同士の交流を増やす。 ●子育て支援ネットワークを基盤とした「家庭教育支援チーム」を立ち上げ、家庭教育に関する支援体制が整えられるよう進めていく。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策12 乳幼児期からの家庭教育の推進</p> <p>○家族ぐるみの楽しい家庭教育の在り方を啓発します。</p>	<p>(2) 放課後子ども総合プラン推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> やまがた子ども文化クラブによる放課後子ども教室を継続します。また福祉課と教育委員会が連携し、放課後子ども総合プラン事業の推進を図ります。 放課後児童クラブが開設された小学校での放課後子ども教室の在り方を検討し実施につなげるため、学校教育課と調整を行います。 	生涯学習課	<p>放課後子ども教室</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合プランによる教室 1校 9回 伊自良南小学校 延べ178人 文化クラブによる教室 2校 6回 高富・富岡小学校 延べ327人 <p>子どもの居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 土曜教室(文化クラブ) 9教室 37講座 9特別講座 4イベント 高富・伊自良中央公民館(2) 高富・富岡・梅原・桜尾・大桑・西武芸・北武芸地区公民館(7) 延べ3,111人 	<p>《成果》</p> <p>[放課後子ども総合プラン]</p> <p>○総合プランによる放課後子ども教室については、小学校との連携を図り、子どもたちへの地域社会人講師による学習支援を実施することができた。</p> <p>[子ども文化クラブ]</p> <p>○子どもたちの安全安心な放課後の居場所(活動拠点)づくりができた。</p> <p>○さまざまな体験を通して、異年齢及び世代間のふれあいや地域社会とのつながり・交流ができた。</p> <p>○指導者等にとっては、「地域の子どもは地域で育てる」連帯感のあるまちづくりへの参画や学んだことを生かす喜びの場ができた。</p> <p>《課題》</p> <p>●放課後子ども総合プランにおける子ども教室を増加・推進するにあたり、子ども文化クラブとの調整や放課後児童クラブとの連携のあり方の検討や、指導者・コーディネーター等の人材確保と実施体制の充実を図る必要がある。</p>	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策13 青少年健全育成の推進</p> <p>○地域と家庭・学校が一体となって青少年を育てる体制を整備します。</p>	<p>(1) 青少年健全育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、学校、関係機関・団体との連携強化による青少年の健全育成運動を積極的に推進します。 ・心豊かな明るい家庭づくりを推進します。 ・青少年の健全な団体活動、社会参加活動を促進します。 ・青少年の健全な社会環境づくりといじめや非行の防止に努めます。 	生涯学習課	<p>山県市青少年育成市民会議が開催した主な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会 150名 ・少年の主張大会 190名 ・青少年育成推進大会 ・中学生と市長と語る会 ・青少年の非行被害防止全国強調月間に伴う街頭啓発 ・電柱に「いじめ防止」を訴える標語看板の設置 H30年3月時点 3箇所 ・各小学校区青少年健全育成活動の促進 ・地域活動への小中学生の参画(伊自良夏祭り、夏の集い等) 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○青少年の現状と課題について、PTA連合会をはじめ青少年育成関係団体との情報共有に努め、青少年健全育成事業の充実を図った。 ○各小学校区における青少年と地域住民が交流する機会を設け、相互理解を深めることができた。 ○地域活動に小中学生の参画が得られた。 ○少年の主張大会については、圏域及び県大会を見据えた市大会に取組み内容を変えることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校区単位での青少年健全育成事業の充実度に地域格差がある。 ●大会等により多くの市民が参加してもらえるよう促す工夫が必要である。 ●各種団体等の行事やイベントなどが時期的に集中するため、関係団体間の行事等の情報共有が必要である。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策13 青少年健全育成の推進</p> <p>○地域と家庭・学校が一体となって青少年を育てる体制を整備します。</p>	<p>(2) 成人式開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施する年度中に20歳を迎える人をお祝いするため、市としての式典及び実行委員会による記念パーティーを行います。 ・広報やまがた等を活用して、実行委員会委員の募集を行います。 ・厳粛なうちにも新成人が親近感をもつよう、今後も実行委員会によるパーティーを企画します。 	生涯学習課	<p>成人式の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念式典 ・記念写真撮影 ・記念パーティー（中学校恩師との歓談） <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者：295人 市内在籍（外国人含む） ・出席者：231人 ・出席率：78.3% 	<p>《成果》</p> <p>○成人となった自覚と、責任ある行動を取ることに對しての意識を高めることができた。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●成人式実行委員の確保が困難である。 ●実行委員による企画や司会進行が行えるよう内容を工夫する必要がある。 ●まちづくり企業支援課と協力して、成人式出席者へ向けて市の魅力をPRする場を設定するよう検討する。 ●成人年齢が2022(平成33)年4月1日から18歳に引き下げられることから、今後の成人式のあり方を含め、平成33年度の成人式の会場確保や時期等の検討していく必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策14 新たな生涯学習人口の増加と地域づくりの推進</p> <p>○だれもが自主的に学ぶ生涯学習のまちづくりのための環境を整備します。</p>	<p>(1)生涯学習関係団体育成・支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各団体が自主的に運営や活動ができるよう指導・助言体制を整備します。 各団体・各会員の学習意欲を満たすことができる適切な指導者を紹介できるよう支援体制を強化します。 該当団体と行政や他団体がスムーズに連携できるよう助言します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会育成協議会の夏休み巡回映画会の開催や子ども会インリーダー研修会・育成指導者研修会での助言・指導を行った。 P T A連合会の役員研修会等研究大会での発表会への指導・助言を行なった。 11月に青少年育成市民会議とP T Aとの合同研修会を開催した。 県や地区組織等の上部組織の会議研修会への積極的な参加、連携と研鑽、親睦を図った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども会、P T A等の活動への指導・助言を行い、事業が円滑に実施することができ、会の発展と会員相互の理解、親睦が図れた。P T A研修会への青少年育成関係者の参加が得られたほか、両組織の合同会議の充実を図ることができた。また、県等の上部組織との連携等も図ることができた。 ○研修会を開催することで、インリーダーや育成指導者の交流を図ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各団体の活動内容の積極的なP R等手法の工夫を行うとともに、より多くの会員の参加を促すため、事業内容の見直しも含めた検討を行う必要がある。 ●研修会や行事への参加者が年々減ってきているため、いかにして参加を促すか工夫する必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策14 新たな生涯学習人口の増加と地域づくりの推進</p> <p>○だれもが自主的に学ぶ生涯学習のまちづくりのための環境を整備します。</p>	<p>(2) 公民館活性化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化創造・地域づくりのために、市民の要望を踏まえた公民館講座の開設を図ります。 サークル活動が充実できるよう登録団体は施設利用料を無料にするなど支援を継続します。 公民館長・主事のスキルアップをめざす館長・主事会を開催すると共に広域で開催される研修会に参加します。 美山中央公民館（ホール）は、多くの研究大会、講演会、芸能発表会などが開催されるため、音響の設備の充実を図り、利用団体等に呼びかけ操作技術講習会を行う。 地区公民館トイレの洋式化改修工事を継続し実施します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 公民館講座を開設し、文化と教養を高めた。 自主活動する市民団体や講座から移行したサークルが公民館の登録サークルとなり活動し、文化祭などで発表した。 公民館ごとに地域住民や利用団体と共に学習発表会、地域づくりの盆踊り大会や、山登り・鱒のつかみどりなどを実施した。 職員資質向上と公民館相互理解のため各種研修会への参加と、館長・主事会及び運営審議会・運営委員会・協議会を開催した。 美山中央公民館は、音響設備改修工事第2期のアンプ・スピーカー改修工事を実施し、第1期の改修と共に音響システムの最適化ができた。 トイレ改修は、富岡公民館2階男女各トイレの1箇所と富波公民館の1階男女兼用トイレの1箇所を洋式化した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公民館活動で利用団体の構成員が自己研鑽と仲間作りができ、余暇時間を活用できた。また、学んだことを地域交流に役立て、地域リーダーとなった。 ○中央公民館運営審議会・地区公民館運営委員会（協議会）を開催することにより出席した委員の所属する団体への理解と協力が得られた。 ○館長・主事会を年間5回開催し、公民館業務を理解し、新規事業の企画ができる主事ができた。 ○地域の状況に合わせた公民館づくりとして、北山公民館で高齢者のインターネット活用の普及を試み少数の利用があった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●講座の受講生は、募集だけで集まらない。各主事が口コミで広めるなどの熱意ある取り組みが必要になる。 ●福祉課、総務課（自治会担当）等他部署との連携を深めていく必要がある。 ●防災への取り組みを検討する。 ●過疎、高齢化する地域の実情に応じた公民館のあり方を検討する。 ●トイレ改修は、予算付けが遅れ年次計画に基づく改修が行われてない。 	B

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	■主要施策15 生涯スポーツの推進 ○だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備します。	(1) 健康スポーツ推進事業 ・市民の一層の健康増進を図る為と、少年スポーツの推進の為、社会体育施設及び学校開放施設を無料で使用してもらい、健康寿命の増進・体育施設の有効利用を図ります。 ・近年の高齢化社会に対応した健康づくりの面からも、レクリエーション的な運動プログラムの実践を図ります。体育協会や体育振興会との連携を強化します。 ・スポーツ吹矢のPR強化のため、各地区体育振興会等への出前講座事業を展開します。	生涯学習課	・市民の健康増進・維持を図るため、市主催によるラジオ体操・みんなの体操会を各地区体育振興会と協働し、市内9会場で開催した。 参加者 1,900名 ・地区体育振興会、地区公民館発表会へスポーツ吹矢の出前講座を実施した。 市内3会場(梅原、大桑、伊自良地域)	≪成果≫ ○学校開放施設及び一部社会体育施設の無料化を引き続き実施することにより、運動への関心と交流が図られ、利用者が増加した。 ○夏期に実施するラジオ体操会の定着化を更に図ることができた。 ○新たな軽スポーツメニュー(スポーツ吹矢)のPR実践を図ることができた。 ≪課題≫ ●レクリエーション行事への参加者を年々増やし、市民の健康寿命延伸の普及に努めるとともに、新たな軽スポーツメニュー(スポーツ吹矢等)の普及を進める必要がある。	A
		(2) 全国大会等出場応援事業 ・全国大会等出場応援金事業について、幅広く市民の方に周知徹底を図るとともに、出場選手についても、広報等に掲載していきます。	生涯学習課	【発行枚数】 2,905枚 【申請者数】 68組 内訳：スポーツ系 66組 文化系 2組 (個人・団体含む)	≪成果≫ ○スポーツ大会のみならず、文化系大会の出場者の申請もあり、選手の活躍に貢献できた。 ≪課題≫ ●全国大会等出場応援金事業について、市HPや広報などで市民の方への周知徹底を図る必要がある。 ●校長会などで市内各小中学校へ周知徹底を図る必要がある。	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策15 生涯スポーツの推進</p> <p>○だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備します。</p>	<p>(3) 体育施設管理・建設事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会体育施設や学校開放施設のさらなる積極的活用を推進します。 施設利用マナーの向上を図ります。 社会体育施設を定期的な点検を実施し、予算的に対応可能なものについては、速やかに修繕修理を実施します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 社会体育施設及び学校開放施設の計画的な貸し出しを実施した。 6月に利用者による体育施設の清掃ボランティア活動を実施し、当該年度から社会体育施設は指定管理者が、学校開放施設は教育委員会主催で実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の無料化により利用者が増加し、スポーツを通じた市民の交流や生涯スポーツの振興に貢献できた。 ○一年を通じてマナー徹底の呼びかけをしたこともあり、学校からの報告は抑えられた。 ○予算の範囲内で、速やかな施設修繕ができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●火災予防条例等法令に基づく危険物持込禁止や、使用マナーに関する表示等を実施していく必要がある。 ●施設の老朽化により今後、修繕修理の経費が増大することが見込まれるため、計画的な改修計画が必要である。 	A
		<p>(4) 体育施設指定管理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> NPO法人たかのみスポーツクラブを指定管理者として、利用者のサービス向上に努めるため、定期的に管理・運営状況を把握し、指定管理事業が適切に執行されるよう努めます。 指定管理施設の修理・修繕等、NPO法人たかのみスポーツクラブと連携して、使いやすい環境整備・運営に努めます。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も市総合体育館をはじめとする市内社会体育施設について、NPO法人たかのみスポーツクラブを指定管理者とし、施設の維持管理を委託した。 管理運営状況を把握するため、月1回の合同会議や市内社会体育施設の管理状況を把握するための現地視察を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指定管理者制度によりサービスの向上が図られ、過去最高の売上収入を確保することができた。 ○施設の利用状況及び修理・修繕等の情報を共有することができ、早期の修繕・改修に努めることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設の老朽化等により、修繕費が増加傾向にある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策15 生涯スポーツの推進</p> <p>○だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備します。</p>	<p>(5) スポーツ関係団体育成・支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 市スポーツ推進委員会を中心に、市スポーツイベントの企画・運営、さらに地域におけるスポーツ振興等の指導助言を充実します。 近年の高齢者社会に対応した健康づくりの面からも、体育協会や体育振興会との連携を強化します。 市民が希望するスポーツ活動に積極的に参加できる環境を整備し、誰もが『気軽に実践できる運動プログラム』の実践を図ります。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> 市体育協会による市民スポーツ大会、ジョギング大会を開催した。 10/22 市民スポーツ大会 ソフトバレー、バドミントン、卓球、剣道 参加者 計349名 ※当日雨天により、ソフトボール、テニス、陸上、スポ少・ソフトテニス、サッカー、ゲートボール、グラウンドゴルフの8競技は中止。 3/10 ジョギング大会 参加者 計1,300名 市民の健康・体力づくりを目標に春と秋の2回、ウォーキングイベントを実施した。(4/8、11/3) 秋のウォーキングイベントでは、鷹匠イベント、大桑城登山も併せて実施した。 参加者 計400名 市レクリエーション協会と協力し、レクリエーションフェスティバル2017を開催した。(10/29) 種目：卓球バレー、スポーツ吹矢、バックイン25、ラダーゲッター等 参加者 150名 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ人口の拡大と、健康増進及び市民相互のコミュニケーションが図られた。 ○健康寿命の延伸を目標に、スポーツ推進員による「ウォーキングイベント」を春と秋に開催し、昨年度並みの参加者を確保することができた。 ○秋のウォーキングイベントで鷹匠イベント、大桑登山を実施し、参加者に鷹と土岐氏の歴史的な繋がりを感じてもらうことができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スポーツイベント等の内容をさらに充実し、各イベントのリピーターを増やしていく必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「学び」と「活用」のサイクルの確立	<p>■主要施策15 生涯スポーツの推進</p> <p>○だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備します。</p>	<p>(6) 総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生スクール(11種目)、中学生スクール(14種目)、スポーツ広場(9種目)の充実をはかり、その他四季にあったクラブイベントを実施します。 ・年3回(前期・中期・後期)に分けて、成人、中学生、小学生の3階層ごとに開催するスポーツ教室を充実させます。 ・伊自良地域や美山地域でも活動できるように環境を整備します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・会員……………1,197名 ・登録指導者………125名 ・スクール事業 (小)101日 (中)14種目 延べ24,358人参加 ・スポーツ広場事業 9種目 延べ12,308人参加 ・スポーツ教室事業 20講座 延べ5,759人参加 ・スポーツイベント事業 7事業 延べ808人参加 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なニーズに対応した魅力ある事業を展開し、スポーツ振興や多世代による交流を推進することができた。 ○NPO法人たかのみスポーツクラブ指導者と部活動顧問が連携し中学校へ指導者を派遣することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指導者の確保・養成を図り、及び市民のニーズに合った事業を展開していく必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策16 文化芸術活動基盤の充実と活動の推進</p> <p>○施設を最大限に活用し、市民のニーズに合わせた活動を推進します</p>	<p>(1) 文化の里花咲きホール活用推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種コンサート・公演による市民への芸術鑑賞機会の提供 小学校や保育園等、地域へアーティストを派遣するアウトリーチ事業の開催 ホールでのワークショップ事業による住民の芸術体験等の提供 ボランティア組織を充実し、ホールの円滑な事業推進を図ります。 	生涯学習課	<p>■鑑賞事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 和太鼓 318名 ポップス&クラシック (フルト・ピアノ・ポップス) 145名 クラシック (バイオリン・ピアノ) 113名 クラシック (マリンバ・トランペット・ピアノ) 177名 クラシック (奏春2018) 147名 <p>■市民参加・体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> オリジナル演劇 「やまがた日記」(2日開催) 公募出演者、スタッフ24名参加 254名 「第13回花咲きコンサート」 市民による第九合唱 公募合唱団員51名参加 286名 <p>■芸術の宝箱事業 (小・中学校・保育園アウトリーチ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 和太鼓 ・ダンス クラシック(フルト・ピアノ) クラシック(バイオリン・ピアノ) クラシック(マリンバ・トランペット・ピアノ) <p>小学校9校・中学校1校 保育園5園延べ1,332名</p>	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アウトリーチ事業 市内の園児や児童に対し、質の高い芸術を間近で体感する機会を提供、豊かな人間性や感性を涵養することができた。 ○ホール公演事業 公演のみではなく、アウトリーチと連動した公演により、一流アーティストの質の高い公演鑑賞に繋げることができた。また、小さな子供にも楽しんで頂けるようホール内にジョイントマットを敷き、身近で音楽を感じてもらえるなど、好評を得ることができた。 ○市民参加事業 オリジナル演劇及びボランティア企画による花咲きコンサートは多くの市民の参加を得て開催することができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地理的(伊自良地域)な要因と周知(PR)不足から公演の集客に苦戦をしている。市民のニーズに応えた魅力ある事業の提供と、文化芸術活動を推進すると共にイベントの積極的なPRを行い、集客の増加と利用率の向上を図る。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策16 文化芸術活動基盤の充実と活動の推進</p> <p>○施設を最大限に活用し、市民のニーズに合わせた活動を推進します。</p>	<p>(2) 古田紹欽記念館活用推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化や地域文化（偉人の顕彰等含む）、禅（哲学）に関わる特別展を開催し、市及び館の魅力を情報発信します。 ・市民茶会や講演会・コンサート、ものづくり講座等イベントを開催し、新規来館者の開拓や集客に努めます。 ・茶道ボランティア組織を充実し、ボランティア主体による市民茶会等積極的な活用を図ります。 ・図書館情報システム等の導入により、貴重な蔵書の公開を積極的に進めます。 ・紹欽が愛した墨色の世界をテーマに水墨画の魅力を発信します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・広報を通じて偉人の紹介・顕彰や、紹欽氏の教えを紹介し、市民への情報発信を図った。 ・開館中は常時抹茶体験を実施し、日本文化に触れる機会を設けた。 抹茶体験者数 平均 … 107件/月 ・集客を図るため、市民茶会や好日会イベント、ものづくり講座、雑学講座等を実施した。 来館総数 …5,576人（内イベント参加数204人） ・茶道ボランティア会員主体によるミニ茶会を毎月開催した。 ・水墨画をテーマに、10月に特別講演、9月には伊自良北小学校で水墨画に親しむアウトリーチ事業を実施した。また、3月の伊自良農産物直売所リニューアルイベントでは、水墨画授業等のパネル展示を行った。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○常設・特別展示や抹茶体験を通じて、日本文化や郷土ゆかりの先人の功績を紹介し、来館者が文化に触れる機会を増やすことができた。 ○2回目となった水墨画授業や講座では、描く題材や講演の内容を前回と変え、改めて興味を示す方が多かった。特に子供の水墨画講座では、実際に描くことで五感を使い水墨画の良さを感じ、墨について感心を持つ機会となった。また、講座は、「雪舟と雪村」2人の作品に焦点を絞り、室町期の水墨画について、より発展した内容を学ぶことができた。 伊自良農産物直売所リニューアルイベントで、水墨画等のパネル展示を行い、広くPRすることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●古田紹欽氏が学んだ「禅」「仏教哲学」を一般的に分かりやすく、パネル展示や講座などで示し、広く市民が古田紹欽氏の功績を理解できるよう努める。 ●茶道ボランティア組織が、単なるイベント協力ではなく、主体性ある市民団体として活動できるよう機会を増やす。 ●イベントや展示時期に拘らず、普段から気軽に来館してもらえよう、貸し館や記念館自体の広報を積極的に行う。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価										
				実績	成果と課題											
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策17 市民の読書活動の推進</p> <p>○子どもから大人まで、読書に親しむ環境を整備します。</p>	<p>(1) 図書館運営の拡充事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新刊図書の購入、寄贈、他館との相互貸借により、図書貸出しサービスの充実を図ります。 ・子どもの読書活動推進計画で計画されているように、小・中学校と連携を密にし、図書館・学校・地域が一体となって、子どもの読書向上につながる活動の推進を図ります。 ・美術館・歴史民俗資料館を併設する複合施設の利点を活かし、様々なイベント等を開催し、学習の場、憩い場として相互利用を促進します。 ・調べ学習や読書等の利用者が長時間滞在できるよう、魅力ある施設の環境づくりを進めます。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊図書の購入、寄贈、相互貸借等の貸出サービスの充実 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>新刊購入</td> <td>3,426点</td> </tr> <tr> <td>寄贈 他</td> <td>1,200点</td> </tr> <tr> <td>相互貸借</td> <td></td> </tr> <tr> <td>借受</td> <td>405冊</td> </tr> <tr> <td>貸出</td> <td>125冊</td> </tr> </table> ・みやまジョイフルクラブで民俗資料を活用した昔の遊び体験イベントを実施した。 ・夏季休暇期間に開館時間を1時間延長し午後6時まで開館した。 ・学校図書担当者との交流会を開催した。 ・第2次子どもの読書活動推進計画を策定。 	新刊購入	3,426点	寄贈 他	1,200点	相互貸借		借受	405冊	貸出	125冊	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新刊の定期的な購入及びリクエスト資料の購入並びに他館との相互貸借を積極的に行い利用者ニーズに応じたサービスを提供することができた。 ○小学校2年生が施設めぐりの一環で図書館見学に訪れることにより、図書館に関心を持ち、家族と一緒に足を運ぶ子どもが増えた。 ○民俗資料を活用したイベントの開催により、世代間交流を図ることができ、参加者から好評であった。 ○学校図書館担当者との交流会により、双方の関わり方について話し合うとともに、学校で希望する図書の選考・購入ができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●貸出人数、冊数とも減少しており、相互貸借の利用についても同様である。固定化した利用者からのリクエストに応えるだけでなく、新たな利用者の獲得のため気軽に利用でき、新たな分野への興味が湧くような空間作りや働きかけが必要である。 ●図書館及び美術館、特に歴史民俗資料館の利活用の具体的な検討が必要である。 	A
新刊購入	3,426点															
寄贈 他	1,200点															
相互貸借																
借受	405冊															
貸出	125冊															

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策17 市民の読書活動の推進</p> <p>○子どもから大人まで、読書に親しむ環境を整備します。</p>	<p>(2) 読み聞かせ教室の開催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・納涼読み聞かせ等の創意工夫を凝らした読み聞かせの取組を行います。 ・ものづくりや遊びを取り入れた親子で楽しめる読み聞かせ講座を実施します。 ・家庭での読み聞かせを推進するため、絵本を充実するとともに展示等を通して貸出利用を促進します。 ・読み聞かせイベント開催等の広報活動を充実します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティアの協力のもと絵本等の読み聞かせを実施 本館 実施 50回 参加者 368人 げんきはうす 実施 11回 参加者 115人 ・民俗資料展示室をおばけ屋敷に見立てて納涼読み聞かせ会を開催した。 ・乳幼児の親子対象に、絵本の楽しさを知ってもらうため、リズムに合わせた読み聞かせ、制作を行う教室を実施した。 実施 4回 参加者 166人 ・親子読書室等におすすめの絵本を展示するとともに、親しみやすい環境づくりに心がけ、職員が工夫を凝らし部屋の飾りつけ等を毎月実施した。 ・イベントの開催を広報紙やホームページでPRした。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎週土曜日のおはなしひろばの他、夏休み期間中には会場の雰囲気づくりにも工夫を凝らした「こわ〜いおはなし会」を開催。親子で楽しむ参加者が多かった。 ○おすすめ絵本の展示など、親しみやすい環境づくりとして、親子読書室の飾り付けを毎月変更し、利用者から好評である。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読み聞かせを目的に来館する利用者もあるがごく少数である。一方で体を動かす遊びや制作を取り入れている乳幼児教室は参加者が多く好評である。本を読むことだけではない付加価値的な要素が図書館には期待されていることを踏まえた事業展開が必要である。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	<p>■主要施策18 文化財や伝統芸能等の継承推進</p> <p>○市民のかけがえのない財産を学び、次世代に継承します。</p>	<p>(1) 文化財保存事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の調査・研究の推進や、市民への文化財情報の積極的な提供に努めます。 地域の伝統芸能や伝統行事の継承と振興を図るために、文化財保存団体が行う後継者育成や公開の充実に向けた取組を支援します。 文化財を活用した教育普及活動の充実を図ります。 伝統芸能をまとめた保存版の冊子を作成します。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> H27～29年度までの民俗調査の成果（民俗芸能及び民俗行事116件）を無形民俗文化財調査報告書として編集・刊行した。総頁数530頁300部 文化財保存活用事業の重要無形民俗文化財舞台公演事業と民俗文化財調査研究の実施のため、事業主体となる実行委員会に補助金を交付した。 舞台公演・民俗調査記録上映会 参加団体6団体 来場者210名 指定重要文化財「白山神社拝殿」防災設備管理事業に対し補助金を交付した。 市重要無形民俗文化財等の保存団体の保護継承活動に対し補助金を交付した。 民俗資料活用事業(餅つきと昔遊び)を実施した。 参加者80名 開発事業に伴う試掘調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地内での遺跡の範囲内容確認を実施した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○芸能の所作や行事の手順等を詳細に忠実に記録した無形民俗調査報告書を刊行し、芸能や行事の適切な継承や後継者の育成に大きな力を発揮するものと考えられる。 ○文化財保護・保存団体の活動の活性化を促進し、地域文化の保護継承の一助となった。 ○民俗資料活用事業(餅つきと昔遊び)を市民ボランティア協力の下、企画・実施し、市民が本市の歴史と文化への理解を深める契機となった。 ○文化財保護法に基づく発掘調査を実施し、埋蔵文化財の範囲内容が確認でき、事業者への適正な指導を行うことができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歴史民俗資料館の展示内容が合併以前から変化がなく、魅力ある“山県市仕様”のものに替え、資料館の利活用も考慮し、充実を図る必要がある。 ●民俗資料等の更なる活用にも力を入れる必要がある。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
「ゆとり」と「うるおい」を実感できる文化芸術活動	■主要施策19 国際理解教育の推進 ○多文化共生社会を目指し、国際感覚を磨きます。	(1) 青少年の海外派遣事業 ・アメリカ合衆国オレゴン州フローレンス市との友好都市提携に基づく交流を見直し、青少年の育成に主眼を置いた新しい派遣のあり方を模索する。	生涯学習課	・市としての派遣事業は実施しなかったが、国や県、公益財団法人主催の青少年派遣事業を広報に掲載し、市民に対して周知を図った。	≪成果≫ ○市青少年派遣事業は実施しなかったが、国等の青少年派遣事業の広報掲載により啓発はできた。 ≪課題≫ ●フローレンス市との交流及び国際交流事業のあり方等を検討する必要がある。	D
		(2) 国際交流員受入事業 ・フローレンス市との友好都市提携に基づく交流を見直しに伴い、フローレンス市からの国際交流員招聘に対し廃止も含めた見直しを検討する。	生涯学習課	・国際交流員をフローレンス市以外の外国人でも採用可能となるよう関係要項を見直した。 ・平成28年度から国際交流員を採用していないが、ALT講師による英会話教室を年間通して3講座実施した。 参加者 3講座33名	≪成果≫ ○国際交流員の採用はしなかったが、ALT講師による英会話教室を開催し、身近に英語に触れ、外国人との文化の共有、交流促進が図れた。 ≪課題≫ ●事業の見直しについて、検討する必要がある。 ●県国際交流員や県下大学に所属する留学生などを招聘し、国際交流の体験型イベントなどを企画する。また、山県市ホストファミリーの会の活動にもつなげることで国際交流の活性化を図る。	D

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
人間尊重の精神にあふれた人づくりの推進	<p>■主要施策20 学校における人権教育の推進</p> <p>○全教育活動を通し、人権尊重の精神がみなぎる学校をつくりまします。</p>	<p>(1) 学校人権教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動で、道徳・人権問題を含めた『心にひびく教育』を推進します。 ・同和問題・人権問題に関する研修や広報活動を充実します。 ・「ひびきあいの日」事業を実施し、学校・保護者・地域の方々とともに地域ぐるみの人権教育に努めます。 	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育研修会を年間3回実施した。 ・市内教職員を対象とした人権講演会を開き、人権同和問題に関する研修を充実させることができた。 演題「いじめ・キレる子どもの目線 ～親が見落とす10代のSOS～」 講師 笹岡郁子 氏 ・各学校の人権教育の取組や成果や課題をまとめた冊子を製作することができた。 ・全学校が「ひびきあいの日」を実施し、地域、学校、家庭が一体となった人権教育の推進に努めた。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感の推進を重点として取り組み、各校の取り組みを交流するとともに、各校の取り組みに生かすことができた。 ○ひびきあいの日で授業公開を行ったり、各学校行事等の活動を地域に向かって発信したりすることで、地域と共に児童生徒の健全育成に努めることができた。 ○講演会を通して、昨今の課題であるネットモラルの問題について考え、人権感覚を磨くことができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ひびきあいの日を活用し、さらに地域住民と一体になった活動の一層の充実を図る。 	A

重点施策	重点目標	平成29年度の目標	担当課	平成29年度の実績・成果と課題		評価
				実績	成果と課題	
人間尊重の精神にあふれた人づくりの推進	<p>■主要施策21 あらゆる場、あらゆる機会での人権教育の推進</p> <p>○学習機会を充実させ、人権学習を推進します。</p>	<p>(1) 社会人権教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山県市社会人権教育推進協議会を開催し、今日的課題に対応した人権教育の充実に努めます。 ・公民館等の各種学級や講座、各種団体と連携した映画会、家庭教育学級での人権学習会、人権教育資料の作成等の学習機会を拡大します。 ・隣保館で講座を実施し、地域住民と周辺地域住民の交流促進を図り、人権同和教育を進めていきます。 	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象に、ハンセン病をテーマに描かれた映画「あん」の映画上映会を開催した。 参加者 180名 ・PTA家庭教育学級講座の中で人権教育を実施。 ・美里会館で、地域の小学生を対象にした習字教室を開催した。 参加者 42名 ・標語入り啓発物品を作成した。 	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭教育学級、映画上映会などで、人権問題についての学習機会を提供し、差別や偏見のない地域社会づくりの大切さについて、理解を深める機会となった。 ○美里会館での習字教室を実施し、地域住民と子どもたちの積極的な交流を図ることができた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物品の配布以外の有効な啓発方法を工夫する必要がある。 ●各種団体や企業への働きかけ等、啓発方法を工夫する必要がある。 	B

第3章 点検評価委員会の意見（平成29年度の評価）

（1）点検評価委員からの意見（要約）

主要施策 2(4)	学校コラボレーター事業
・各校の学校運営協議会との一層の連携を図る必要があると考える。	
主要施策 5(1)	非構造部材の耐震対策事業
・窓ガラスの飛散防止対策、階段の手すりの状況について詳しく説明を受け、状況が理解できた。	
主要施策 7(1)	冷暖房設備整備事業
・普通教室以外についても100%を目指すよいと考える。	
主要施策 7(2)	トイレ美化推進事業
・トイレの洋式化は早急に進める必要があると考える。	
主要施策 11(1)	あんしんネットによる登下校等安全対策事業
・実際の災害時にあんしんネットが、どのように機能するかについて具体的に説明を受け、今後の検討課題についても理解できた。	
主要施策 16(1)	文化の里花咲きホール活用推進事業
・アウトリーチ事業の場を公民館などの施設にも拡大してはどうかと考える。	
主要施策 16(2)	古田紹欽記念館活用推進事業
・アウトリーチ事業をすることで、記念館活用のPRになるのではないかと考える。	

（2）その他の意見

- ・検討の中で出てきたさまざまな意見を、次期振興計画の策定の参考にして欲しい。

○山県市教育委員会点検評価実施要綱

平成 21 年 2 月 27 日

教育委員会告示第 7 号

(目的)

第 1 条 この要綱は、山県市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことで、山県市教育行政の推進体制を一層充実させ、教育水準の向上を図り、もって市民の期待に応えるために必要な事項を定めることを目的とする。

(点検評価の実施及び体制)

第 2 条 教育委員会は、前年度の教育委員会の取組みについて、点検評価を行う。

2 教育委員会は、前項の点検評価を適正なものとするため、外部の学識経験者によって構成する山県市教育委員会評価委員会(以下「評価委員会」という。)の意見を聴かなければならない。

(評価事項)

第 3 条 教育委員会は、前年度の取組みについて、次の各号に掲げる内容の点検評価を実施する。

(1) 教育委員会の活動状況 教育委員会会議の実施状況 調査活動の状況等

(2) 事務事業の執行状況 山県市教育振興基本計画に掲げる主要施策の施行状況及びその成果

(3) 前年度の点検評価結果への対応状況 前年度の点検評価結果において次項による達成度の評価が C 又は D とされた事務事業に対する対応の状況

2 前項の点検評価においては、次の 4 区分により達成度の評価を行う。

A 順調に達成しているもの

B おおむね順調に達成しているもの

C 達成見込みであるが課題があるもの

D 順調でないもの

(点検評価の手順)

第4条 点検評価を実施するに当たっては、事務局各課がその所管する事務事業等について第一次評価を行う。

2 教育委員会は、第一次評価の結果を基に、第2条第2項に規定する評価委員会の意見を聴いたうえで、教育委員会会議において最終評価を行う。

3 教育委員会は、前項の評価結果を報告書にまとめ、議会に提出する。

4 教育委員会は、前項の報告書を教育委員会のホームページに掲載するほか、広報等を利用し市民に公表する。

(庶務)

第5条 点検評価の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、この要綱を実施するために必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

○山県市教育委員会点検評価委員会設置要綱

平成 21 年 2 月 27 日

教育委員会告示第 8 号

改正 平成 28 年 6 月 28 日

教育委員会告示第 7 号

(設置)

第 1 条 山県市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うに当たり、透明性及び客観性を確保するため、山県市教育委員会点検評価委員会(以下「評価委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 評価委員会は、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、外部の視点から評価を行い、教育委員会に評価結果を報告する。

2 山県市教育委員会点検評価実施要綱第 3 条第 1 項各号に定める点検評価は、それぞれ様式第 1 号～第 3 号により行う。

(組織)

第 3 条 評価委員会は、委員 10 人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げるもののうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 教育学その他教育行政に関する専門知識を有する者
- (2) 学校関係者
- (3) 保護者
- (4) 民間における企業体、団体等の関係者
- (5) その他教育長が適当と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 評価委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総理し、評価委員会を代表する。

4 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指定した委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 評価委員会は、委員長が招集し、その会議の議長を務める。

2 評価委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて、意見を聴取し、又は必要な資料等の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 評価委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が評価委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成28年6月28日教委告示第7号）

この要綱は、公布の日から施行する。

山県市教育委員会点検評価委員

(敬称略)

委員長	岩田 惠司	岐阜大学名誉教授
副委員長	田上 隆	市自治会連合会会長
委員	古川 雅一	市議会厚生文教委員会委員長
委員	伊藤 崇	県立山県高等学校学校長
委員	河野 隆	はなぞの北幼稚園園長
委員	西村 覺良	市社会教育委員代表
委員	早矢仕 輝	市体育協会会長
委員	杉山 多美子	市小中学校長会会長 (伊自良南小学校)
委員	早川 光嘉	市PTA連合会代表 (伊自良南小学校)
委員	上野 里美	市保育園長代表 (高富保育園)